



MON Nara 通信



Numéro 9

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会

AVRIL 2021 4月

これからの催しご案内

美術クラブ第4回例会「印象派からエコール・ド・パリの作家たち」展鑑賞会

本年度第1弾の美術クラブは、少し足を延ばして、神戸の隠れ家的なプチ美術館の展覧会を鑑賞します。鑑賞前には南城講師の鑑賞のツボ解説、会場ではBBプラザ美術館顧問(元伊丹市立美術館館長)の坂上義太郎氏による見どころ案内があります。鑑賞の後は、喫茶店で南城講師を囲んで懇談を予定。

★日時:5月16日(日)13:30~15:00 ★場所:BBプラザ美術館(神戸市岩屋 近鉄直通阪神岩屋駅から徒歩3分)

★講師:南城守(絹谷幸二天空美術館顧問) ★参加申込:sugitani@kcn.jp TEL 090-6322-0672(杉谷)

★参加費: 会員100円、一般600円。(展覧会入場料400円、喫茶店の飲み物は各自負担となります)

★南城講師からのメッセージ:ルノワール、ユトリロ、ブールデル、マルケ、ヴラマンク、ローランサン、シャガール、佐伯祐三…。近代化の波が押し寄せる激動の20世紀初頭、藝術の都パリに憧れて世界各地から若き才能が集結。夢と現実との狭間で新しい創造の風を追い求めました。彼らは美術のみならず文学や音楽、舞台芸術など幅広い分野との交流を持ち、人間の無限の可能性を大きく促すものとなりました。今回の鑑賞会は、コロナ禍で疲弊した日常に心地良い薫風をお届けすることを願い、古き良きパリに咲き誇った豊穡なる美術動向を振り返り、じっくりと味わってみたいと思います。



シャガール「花束の前の母子」
BBプラザ美術館HPより転載

★BBプラザ美術館とは:小粒ながら名品を集めた個人のコレクションを展示した隠れ家的美術館で、シマブンコーポレーションを母体として2009年に開館。日本美術、西洋美術の絵画、彫刻、版画約1500点を所蔵し、年間数回の意欲的な企画展を開催。また関西ゆかりの現代作家の展示を通して全国の美術愛好家に親しまれている。兵庫県立美術館へと続くミュージアムロードの入り口に位置する。

第57回奈良日仏協会シネクラブ例会 ロメール特集③『グレースと公爵』

❖日時:7月25日(日)13:30~17:00 ❖会場:奈良市西部公民館5階視聴覚室(予定)

❖プログラム:『グレースと公爵』(L'Anglaise et Le Duc、2001年、129分)

❖監督:エリック・ロメール ❖参加費:会員100円、一般300円

❖問い合わせ:Nasai206@gmail.com tel. 090-8538-2300(浅井)

❖映画紹介:舞台はフランス革命期のパリ。主人公は実在の英国人女性グレース・エリオット。監督エリック・ロメールは自ら脚本を書くことが多いが、本作品ではグレースの回想録を翻案。外国人で王党派だった彼女の個人的視点からのフランス革命は、歴史の教科書に見られる民衆の側からの革命像とは少し異なる。ロメールはまた、自然光を活かしたロケーション撮影を得意とするが、本作品は絵画をもとにコンピューター・グラフィックを駆使し、革命時代のパリを再現。様々な試みを重ねて映画の可能性をおし広げてきたロメールの若々しい精神が、この作品でも遺憾なく発揮され



ている。物語はグレース(ルーシー・ラッセル)がサロンでオルレアン公(ジャン・クロード・ドレフュス)をもてなす場面から始まる。あでやかでおちつきある色使いが画面全体にゆきわたる。かつては恋人同士だった二人だが今は友人としてつきあう。グレースは王党派でオルレアン公は革命派。二人は政治的立場を異にするが相手への敬愛は失わない。オルレアン公との関係もさることながら、敵方の逃亡者を自らのベッドの脇に匿うグレースの毅然とした立ち居振る舞いに、ロメールが探求し続ける「友愛」のテーマの片鱗を垣間見ることができる。

2021 年度の催し(予告)

- 放送大学との共催公開講演会:8月22日(日)、奈良女子大学名誉教授、渡辺和行氏によるフランス史のお話を予定しています。
- 第148回フランス・アラカルト:10月9日(土)、会員の濱恵介さんから、アルザス地方のお話をいただきます。
- 秋の教養講座:11月上旬、会員の青山忠正さんから、明治維新とフランスについてお話をいただく予定です。詳細については、改めてご案内しますので、ご予約の程よろしくお願いたします。(事務局)

昨年の「秋の教養講座 2020 カミュ『ペスト』を読む」の放映日決定

- 昨年11月23日に行われた三野会長の講演会(放送大学奈良学習センターとの共催、奈良県文化会館小ホール)が、放送大学のBS231チャンネルで放映されることが決定しました。ぜひご覧ください。
- 4月18日(日)、午後7時30分～午後8時15分

活動記録 (詳細は次号 Mon Nara にて報告)

- ☆2月28日(日):第56回日仏シネクラブ例会、アラン・コルノー監督『めぐり逢う朝』
- ☆3月13日(土):第147回フランス・アラカルト「バティスト・レタヨさんをお迎えして—ヴァンデ地方の魅力を語る」

<<2021 年度第 1 回理事会報告>>…事務局

☆日時:2021年3月18日(木)15:00～16:30。 ☆場所:野菜ダイニング「菜宴」。 ☆出席者:三野、浅井、藤村、中辻、高松、藪田、三木、杉谷。 ☆議題 1. 2021年度会費納入額・会員数。 2. 前回理事会(1/21)後の活動:第56回日仏シネクラブ例会(2/28)、第147回フランス・アラカルト(3/13)。 3. 今後の行事:第57回日仏シネクラブ例会(7/25)、放送大学との共催講演会(8/22)、第4回美術クラブ例会、第148回フランス・アラカルト、秋の教養講座の検討。 4. Mon Nara、Mon Nara 通信。 5. その他:事務担当者の報酬。当協会はボランティア団体であることを確認。 6. 次回理事会:2021年5月20日(木)15:00～16:30「菜宴」。

後記 ☆Mon Nara 通信4月号をお届けします。☆このところ当協会の催しで、フランス革命の話題が続いています。フランス革命というとバスティーユ襲撃とか、マリー・アントワネットの処刑ぐらいしか知りませんでしたが、前回のフランス・アラカルトでは、バティスト・レタヨさんからヴァンデ戦争のお話を伺いました。フランス西部のヴァンデ地方では、若者の軍隊招集への反発をきっかけとして、反革命の戦争が起き、3年のうちに人口80万人の内15万人が虐殺されるという事件が起こったということです。次回(7/25)のシネ・クラブ例会では、やはり少し違った見方からフランス革命に材を取った『グレースと公爵』が取り上げられます。そういえば、前回のシネ・クラブの『めぐり逢う朝』も、宮廷音楽家への誘いをかたくなに拒む作曲家が主人公で、革命前のヴェルサイユ宮殿での華麗な衣装をまとった演奏会の風景がありました。(杉)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆Mon Nara 誌への投稿、とくに新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ表現を変えさせていただくことがあります。Mon Nara 6月号は5月25日が原稿締切日です。
- ◆会員のみなさまで「Mon Nara」(2月、6月、10月発行)、または「Mon Nara 通信」(4月、8月、12月発行)に**チラシ同封を希望される方**は、1)内容がフランスに関わるもの、2)本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせください。

Mon Nara 通信 2021年4月 numéro 9

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者:三野博司